

ステップアップ 畜産！



西部農業事務所家畜保健衛生課（西部家畜保健衛生所）

〒370-0074 高崎市下小島町 233

TEL 027-362-2261、FAX 027-362-2260

～記事～

- ★野生いのしし豚熱検査実施状況について
- ★第17回拡大豚熱疫学調査チーム検討会を踏まえた提言
- ★管内農場における繁殖豚の豚熱中和抗体価分布について
- ★アジア地域におけるアフリカ豚熱の発生状況について
- ★堆肥の適正な処理をお願いします

～添付資料～

- ★農作業中の事故を防ぎましょう！！一畜産における「転倒」編一
- ★ご存じですか農業用免税軽油

★野生いのしし豚熱検査実施状況について（R4.4.1～R4.11.24 検査）

＜西部管内での結果＞

市町村	高崎	富岡	安中	藤岡	甘楽	下仁田	神流	南牧	上野	合計
検査数	112	20	76	0	0	0	7	2	2	219
陽性数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

＜県内の他地域での結果＞

地域	中部	吾妻	利根沼田	東部	合計
検査数	135	127	41	68	371
陽性数	4	0	0	17	21

いのししの繁殖の季節到来です。通常、雄と雌は別々に活動しますが、この時期は雄が雌に寄り添う形で行動しますので、感染の機会が増えます。冬から春にかけてはいのししの活動範囲も広がりますので、豚熱ウイルスの浸潤（広がり）に警戒していきましょう。



★第17回拡大豚熱疫学調査チーム検討会を踏まえた提言

農場、豚舎出入時の衛生対策について、国の調査チームの提言（令和4年8月3日付け）を取りまとめました。

以下の提言（抜粋）を熟読いただき、農場を守る対策の参考にしてください。

*詳細は農水省 HP→



提言 1：農場・豚舎出入時の衛生対策

ワクチン接種推奨地域においては感染野生いのししが多数生息しているため、農場進入時・豚舎立入時の2重の衛生対策が重要です。

◆農場進入車両の消毒について

- 石灰 帯：水分不足や硬化による消毒効果不足、および接地面のみの消毒のため、動力噴霧器の併用が必要
- 消毒ゲート：タイヤやタイヤハウス等に土壌等が残存しやすいため、動力噴霧器の併用が必要
- 複数の出入口：消毒後に公道を走行すると再汚染の可能性があるため、出入口を可能な限り限定

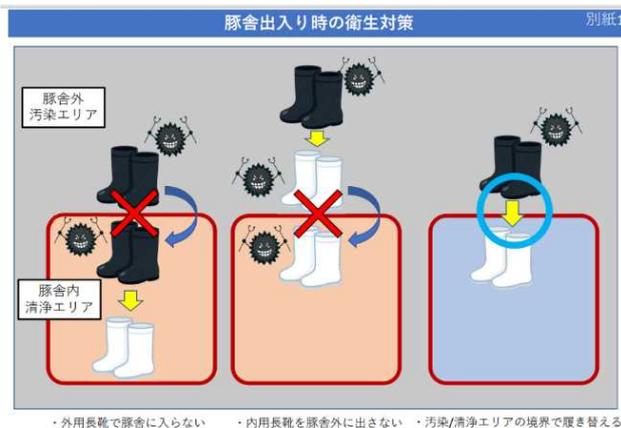
◆豚舎出入時の手指消毒、作業着・長靴の更衣等の作業について

免疫獲得していない豚群への感染を防御するため、豚舎出入の際にウイルスを持ち込まない措置が重要。

◆前室での長靴、衣類の交換が望ましい

豚舎外で使用した靴、衣類は豚熱ウイルスに付着している可能性があるため、豚舎内に持ち込まず、前室での履き替え、または出入口外側で脱ぐ等の対策が必要（右図）。

豚舎外で保管する場合も舎内専用長靴で豚舎外を歩行しないとといった動線を確認しておく必要がある。



◆簡易豚舎の使用について

ウイルス等が侵入しやすい構造のため、飼養管理により隔離しながら設置状況を再度検討する必要がある。

提言 2：農場・豚舎内への野生動物等の侵入防止

柵設置のほか、周囲の除草管理・整理整頓が有効

- 過去の環境検査で、ネズミ、ネコ、鳥等の糞からウイルスを確認。
- 野生動物を誘引しやすい飼料保管庫・堆肥舎・死体保管庫の対策が重要。
- 老朽化した豚舎においては破損部分が常態化するため、家保や管理獣医師など外部の目線で点検・指摘が有効

提言 3：豚・資材を介した病原体の侵入防止

- 疫学調査で、豚の移動に未消毒のケージ等を使用している事例
- 使用后、洗浄消毒して保管後も汚染のリスクあり→使用前の洗浄消毒が必要
- 母豚の移動もケージや屋内通路が望ましい
- 屋外の通路、未舗装の通路は消毒や石灰散布だけでは消毒効果が不十分

提言 4：子豚の飼養管理及び早期通報の徹底

移行抗体の切れ目の離乳豚やワクチン抗体が上昇前の肥育豚での発生が確認されていることから、産子間での偏りが無いような初乳摂取や、日常から丁寧な観察で死亡や症状の記録をとり、死亡数増加等の異常を速やかに把握することが重要

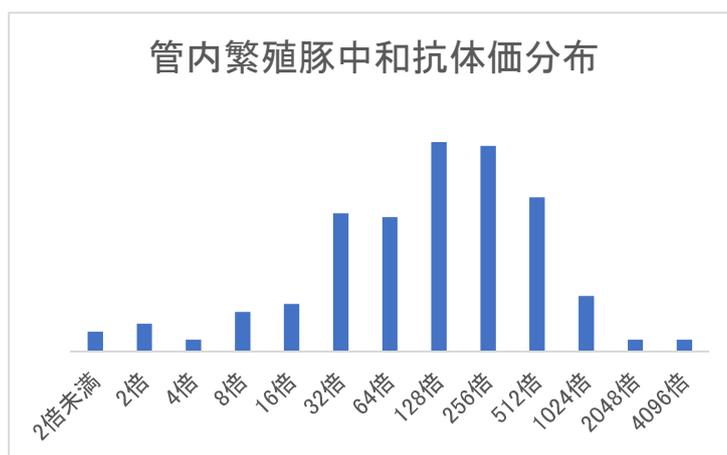


★管内農場における繁殖豚の豚熱中和抗体価分布について

繁殖豚の抗体保有状況は子豚の移行抗体に反映されるため、ワクチン接種推奨日齢を推定するには、繁殖豚の中和抗体価の測定が必要となります。上期に各農場における豚熱抗体保有状況の確認を行いましたので、その状況を報告します。

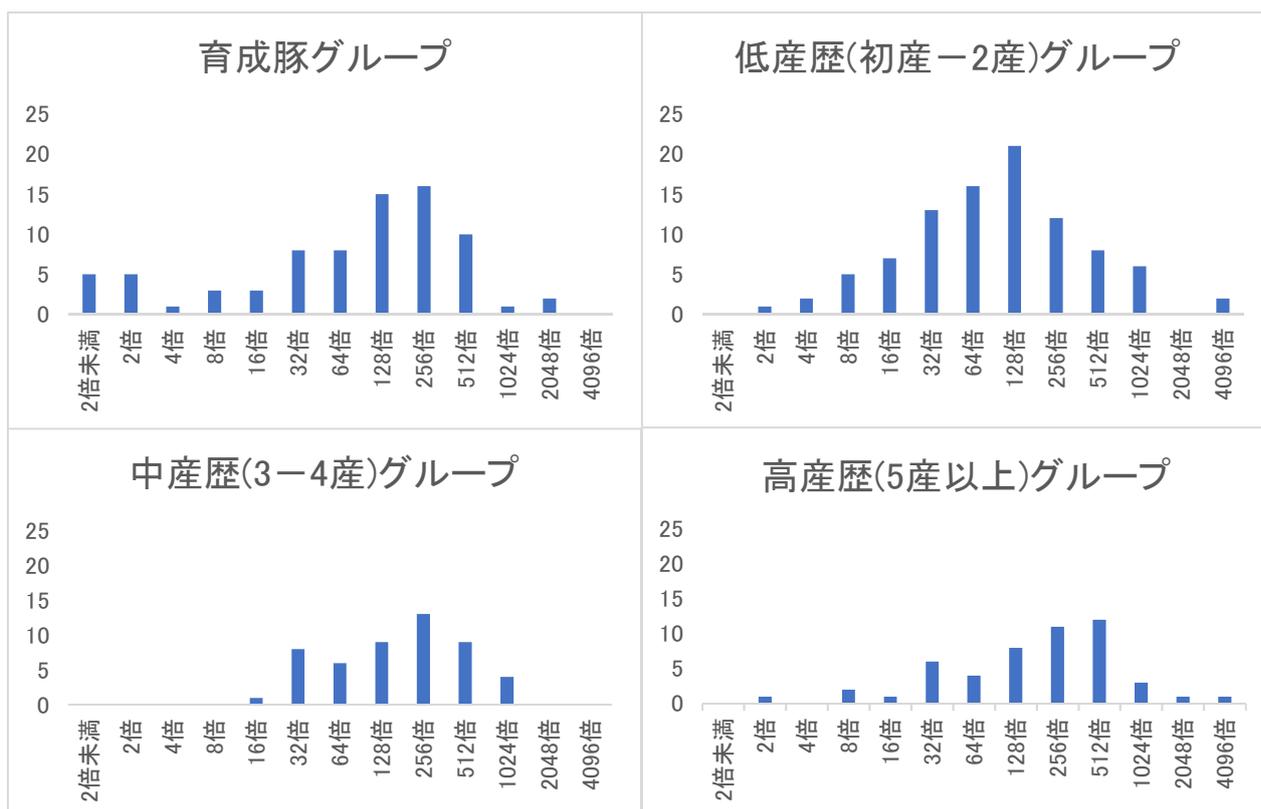
◆繁殖豚全体の中和抗体価

農場ごとの繁殖豚の産歴分布や、更新頻度、飼育状況、個体差等で変動はありますが、これまでに採材した管内における繁殖豚の中和抗体価分布は、おおむね 128 倍を中央値とする正規分布となりました（右図）。



◆産歴毎の中和抗体価

育成豚、低産歴（初産～2産）、中産歴（3～4産）、高産歴（5産以上）毎に分布をみると、産歴が高くなるほど中和抗体価は高くなる傾向にありました（下図）。この結果は、以前から報告している第1世代、第2世代の傾向と合致しました。



しかし、この結果は繁殖豚全体で見た数値のため、農場ごとの中和抗体価の分布をみるのが重要です。繁殖豚の更新頻度が低い農場では中和抗体価分布が高い傾向の可能性があり、更新頻度が高い農場でも導入元農場の中和抗体価が安定していなければ、バラツキが生じます。

今後、中和抗体価が安定していく状況になるまで、随時検査を実施する必要があります。

また、育成豚では2倍未満等の低い抗体価を示す個体が見られました。現在、豚熱ワクチンは九州・北海道以外の地域が接種推奨地域に指定されており、接種推奨地域からの導入豚の多くは離乳時に初回のワクチンを接種済ですが、一部の導入豚は低い抗体価で導入されている可能性があります。また、接種推奨地域外から導入した場合はワクチン未接種です。そのため、育成豚には導入時（半年後の接種と同義）の追加接種が必要です。

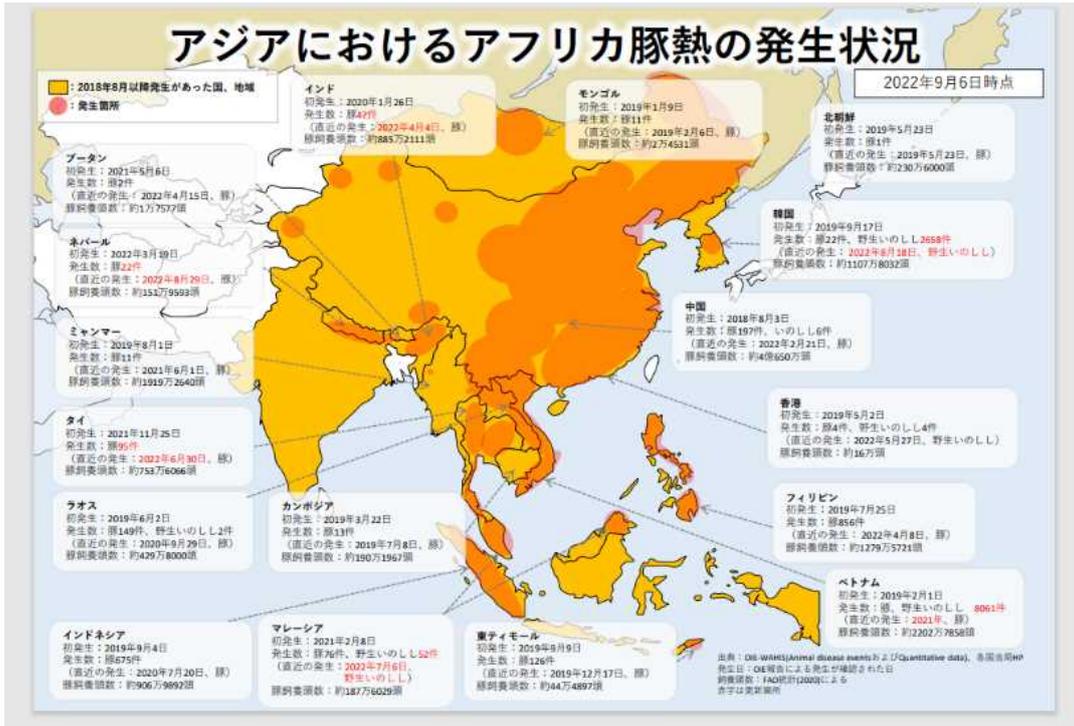
下期においても、
順次、農場採血を実施していますので、
ご協力よろしくお願いたします



★アジア地域におけるアフリカ豚熱の発生状況について

アジア地域では依然としてアフリカ豚熱の発生が継続しています。今年は、タイ、ネパール、インド、マレーシア、韓国で確認され、多くの国で野生いのししにも広く浸潤している状況です。アジア地域全体にアフリカ豚熱ウイルスは浸潤しているため、口蹄疫と同様、いつ国内に入ってきてもおかしくない状況です。

畜産関係者等の感染症危険地域への渡航自粛をお願いしているところですが、農場に置かれましても防疫対策（衛生管理区域への不要物品の持ち込み防止、作業服や長靴の消毒・交換等）の徹底をお願いいたします。



韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況

2022年9月5日時点

【飼養豚での事例】

事例	確定日	発生地域
1	2019/9/17	京畿道坡州市
2	2019/9/18	京畿道漣川郡
3	2019/9/23	京畿道金浦市
4	2019/9/24	京畿道坡州市
5	2019/9/24	仁川広域市江華郡
6	2019/9/25	仁川広域市江華郡
7	2019/9/26	仁川広域市江華郡
8	2019/9/26	仁川広域市江華郡
9	2019/9/27	仁川広域市江華郡
10	2019/10/2	京畿道坡州市
11	2019/10/2	京畿道坡州市
12	2019/10/3	京畿道坡州市
13	2019/10/3	京畿道金浦市
14	2019/10/9	京畿道漣川郡
15	2020/10/9	江原道華川郡
16	2020/10/11	江原道華川郡
17	2021/5/5	江原道寧越郡
18	2021/8/8	江原道高城郡
19	2021/8/16	江原道麟蹄郡
20	2021/8/26	江原道洪川郡
21	2021/10/8	江原道麟蹄郡
22	2022/5/26	江原道洪川郡
23	2022/8/18	江原道横口郡



【野生イノシシでの事例】(単位: 件)

地域	事例数
京畿道	100
坡州市	416
漣川郡	94
加平郡	82
鉄原郡	36
華川郡	425
春川市	222
福口郡	81
麟蹄郡	158
高城郡	12
寧越郡	189
襄陽郡	36
江原道	105
江陵市	83
洪川郡	42
平昌郡	1
東寧市	169
旌善郡	56
横城郡	85
三陟市	6
原州市	8
東海市	8
丹陽郡	89
堤川市	69
報恩郡	73
忠州市	25
尚州府	36
蔚珍郡	10
開城府	6
梁州市	2
合計	2658

初発生: 2019年9月17日
 発生数: 豚23件、野生いのしし2658件
 豚、いのしし飼養頭数: 約 1107万8032頭

※ 韓国当局公表資料等の情報をもとに作成
 飼養頭数: FAO統計(2020)による
 発生件数: 最新情報

★堆肥の適正な処理をお願いします

この季節は、生産された堆肥の流通に困っている畜産農家の方も多いかと思
います。また、春先に利用するために自家の畑に堆肥を散布せずおいておくこ
とは、家畜排せつ物法違反となってしまいますので注意が必要です。堆肥を流
通させるためには、良質な堆肥を生産するとともに、堆肥を利用する耕種農家
に知ってもらう必要があります。

自家堆肥の販売情報をインターネットにより周知できます

(公社)群馬県畜産協会では、ホームページ上で堆肥の生産
者情報を公開しています。そこに登録されている農場の中
には、自農場の堆肥利用者が増えた方もいらっしゃいます。



登録を希望される方は、「群馬県畜産協会」のHP上で「堆肥」で検索して
いただき、堆肥生産所在地マップから手続き等を確認してください。



西部家畜保健衛生所 〒370-0074 高崎市下小鳥町233
TEL 027-362-2261 (緊急時は24時間対応) FAX 027-362-2260

★ 畜産業を廃業された方に送付された場合は、お手数ですがご連絡ください。